

発行所

早稲田大学藤沢稲門会

事務局

FAX 050-3730-7252

E-mail:w.fujisawa@
crocus.ocn.ne.jp

発行人 内 田 進

穂 濤 編 集 委 員 会

2023
新春号
No.90

穂 濤

For WASEDA University Old Boys & Girls

、藤沢で、3年ぶりに開催、

神奈川県支部大会

令和4年11月5日(土)
県下14稲門会の「早稲田大
学校友会神奈川県支部大
会」が藤沢稲門会主管によ
り藤沢商工会館ミナパーク
にて開催された。195名
(内藤沢稲門会34名、大学5
名)の参加であった。
2019年に厚木で開催
されて以来3年ぶり。未だコロナ
が心配されるなかマスク着用・検
温・手指消毒を徹底した。

新しい年を迎えて



藤沢稲門会 会長
内 田 進

藤沢稲門会会員の皆様におか
れましては、健やかに新春をお
迎えのこととお慶び申し上げます。
2020年初冬に発生した未
曽有のコロナパンデミックの影
響で、大学側・校友会本部も慎
重となり、稲門会活動は大きな
停滞を余儀なくされました。

定刻の午後3時に司会の庄司修
副会長の発声で大会旗を掲げた藤
沢稲門会内田進会長の先導で、来
賓・各稲門会会長が会場入りした。
まず内田会長より、歓迎の挨拶、
そして女性校友、同好会数も多く、
若手の会があることが藤沢稲門会
の特徴と紹介があった。続き鴻谷
正博県支部長及び横浜稲門会会長
から、大隈公が尽力した鉄道開業
150年そして藤沢を経由し、国
府津迄延伸後135年の記念の年
当会におきましても、同年2月
8日に挙行了した総会・新春の集い
以降、各種行事を中止せざるを得
ない不本意な状況が続いておりま
した。そんな中、昨年はコロナの
状況を判断しつつ、活動を再開い
たしました。
5月には3年振りに地引網を行
いましたが、参加したお子さん達
のきらきら輝く目を新鮮に感じた
次第です。また、長らくお待ちせ
てしまった新入会員の皆様との
懇親会も2度にわたり開催、フレ
ッシュな顔合わせが出来ました。
11月には、主管者として3年越
えとなった県支部大会も無事に終
えることができ、大役を果たせま
した。更には、恒例の忘年会、年
末の作品展など実施、会員の皆様
との交流が、ようやく復活しつつ
あります。



鴻谷県支部長

とお祝いが述べられた。
来賓講演は、田中愛治総長が行
う予定であったが、急遽病欠とな
り、代わりに井上文人常任理事が
壇上に立った。講演を前に田中総
長の欠席のお詫び等が述べられた。
講演は大学の目指す方向を示し
た「早稲田ビジョン150アンド
ビヨンド」の説明。世界の中で
早稲田が強調され、印象に残っ

幹事会でも、ホームページの改
良やIT化を進め、皆様へのタイ
ムリーな情報発信に心がけていま
す。しかし、コロナ発生以降のブ
ランクについては、影響も多かつ
たのは事実です。
藤沢稲門会の特徴である同好会
活動があまり動かず、メンバー皆
様の高齢化も相俟って、不活発に
なっていることは残念至極です。
コロナの状況は、まだまだ不透
明ですが、幹事一同、明るく楽し
い活動に向けて、今年も誠心誠意
努力いたしますので、皆様には、
是非、各種行事や同好会活動に積
極的にご参加いただきたく存じま
す。
末尾になりましたが、皆様のご
健勝をお祈り致しますと共に、本
年もどうぞご支援、ご協力のほど、
よろしくお願い申し上げます。



井上常任理事

引き続き内田会長から井上常任理
事に寄付金が贈呈された。県支部
大会の締め括りとして来賓の萬代
晃校友会代表幹事から盛会のお祝
い、日頃の各募金のお礼そして今
後の応援募金等への協力依頼があ
った。



素晴らしいハーモニーのグリークラブ

休憩後、佐藤順子副会長が懇親
会開始の挨拶。メインのアトラク
ションは115年の歴史を持つグ
リークラブによる20名の男性合唱。

穂 瀧



盛り上げてくれた応援部

校歌・応援歌・学生歌等8曲が披露された。終了後はアンコールの声も鳴りやまず、有名な民謡で大きな拍手のもと締め括った。周囲から心が洗われるような声も聞こえた。

休憩の後藤沢稲門会会員である、鈴木恒夫藤沢市長の発声で乾杯、懇談の時間となった。尚感染対策から弁当の食事でテーブルを移動しないよう司会がお願いした。懇談のなか、三木省吾校友会事務局



伊勢原・秦野への大会旗継承

長、本間知佐子副事務局長、小林誠地域コーディネーターが壇上に立ちそれぞれ挨拶。本間副事務局長からは藤沢稲門会員が掲載された早稲田バカ特集の早稲田学報が紹介された。

引続き内田会長から次期開催主管の長塚幾子伊勢原稲門会会長、横溝彰秦野稲門会会長へ大会旗継承が行われ、それぞれ挨拶があった。ト리는応援部による、校歌斉唱、エールがそれぞれマスク着用で行われ、笹井修一副会長の挨拶で、高揚した気分のなか終了した。(舛岡 健記)

親睦交流会3年ぶりに開催

SUC

今回の湘南ユニバーシティイクラブ(SUC)は、工学院大学の幹事で、10月15日開催。

第1部は、工学院大学伊藤学長の「箱根駅伝を科学する」の講演会。速く走るには、太ももを鍛え、ふくらはぎを細くし、かかとを固定し、つま先着地をする。集団で走る場合は、先頭を走らず、空気抵抗を減らすように集団の中

を走る。山登りではピッチ走法で走る。——等、科学的根拠を基にわかりやすく解説いただいた。第2部は、親睦交流会。各大学からの近況報告があったが、ほとんど誰も聞いておらず、3年ぶりに親睦を深め、大いに盛り上がり、あつという間の1時間30分だった。今回は関東学院大学の幹事で開催される。庄司 修(昭48理工・土木)

3年ぶりに開催!!

忘年会

藤沢稲門会の忘年会が12月3日(土)3年ぶりに開かれました! コロナでストップしていた様々な行事が再開となり、忘年会も感染対策を万全にしつつ、例年通り藤沢市民会館で行われました。



藤沢稲門会の皆さん

準備をする幹事もワクワクしながらセッティングします。12時笹井修一副会長の開会宣言で始まり、総合司会は大庭信俊行事企画委員長です。すぐにアトラクションの「藤沢歌う会」の皆さんによるクリスマスソングなど、12月らしい心なごむ歌の数々が披露されます。

3年ぶりの校歌斉唱



そして内田進会長の挨拶のあと乾杯、お食事タイムと続きます。食事・懇談の時間にHP運営チーム力作の同好会紹介のビデオが流されました。

第20回藤稲作品展

第20回藤沢稲門会作品展が12月20日~25日まで藤沢市民ギャラリーにて出展者42名と1サークルの参加により開催されました。コロナ禍の影響を受け3年ぶりとなりましたが、いつも通り絵画、写真、書道、陶芸、手工芸と多彩なジャンルで会員の活発な創作活動を披露することができました。

節目の作品展を3年ぶりに開催

水彩、クロスステッチ等絵画系がならびます。続いて写真コーナー、自然の雄大さや静けさ、あるいはユーモラスな瞬間をとらえた作品等、個性的な写真が壁面を飾りました。



「藤沢百趣」

会場中央の工芸コーナーでは安定した陶芸の熟練の技の隣に、入



抽選会のお二人

び、リコーダー、フォトクラブなど皆さん楽しんでます。その後にお楽しみみの抽選会。洞江良行事務委員長のコールに一喜一憂です。締めくくりは恒例の有賀正義行事委員の応援を得て校歌斉唱。庄司修副委員長の閉会の言葉で終わりました。69名参加の楽しい一日でした。山下扶佐子記

穂 漣

門したての初々しい日常使いの食器などが並び親しみ易さをさそいます。さらに鎌倉彫や革細工、木彫り仏像など藤沢稲門会ならではのユニークな工芸作品が並びます。入口近くに配置した鎌倉殿の13人(手工芸)で話題のドラマを反芻し、写真コーナー付近に展示した藤沢百景のカルタで藤沢ではおなじみの風景を思い浮かべることができました。



出展者が大集合!!

藤沢稲門会の各種行事は会員間の親睦を図ることを主な目的としています。この作品展は同好の会員間のみならずご来場の皆様との交流を図る貴重な活動の場と位置づけられます。今回の作品展には1691名のご来場がありました。

次回もより活気のある作品展となるよう新たな会員各位の積極的な参加をぜひともお願い致します。
小川道雄(昭和55教育)

3年ぶりの稲門祭に参加

平成卒の会

去る10月23日(日)3年ぶりに稲門祭2022が開催されました。湘南地区平成卒の会もブースを出店し、障がい者施設で作られた菓子パン販売を致しました。当日は、秋晴れの稲門祭日和、平塚から1名の参加、加えて、たくさんの藤沢稲門会の先輩方にお立ち寄りいただきました。早朝、沢山のパンを仕入れて懐かしい大隈講堂前に集合、早速ブースの準備を始めましたが、何とコロナ禍により構内は飲食禁止。

売れ行きはどうなるか、不安がよぎります。また、3年前の稲門祭では、藤沢稲門会で販売し大いに盛り上がった記憶もあり、飲食禁止には少しがっかりもありました。けれども、いざ稲門祭が始まってみると、全ての心配が杞憂でした。手軽に持ち帰れるパンは帰宅してお昼を家で食べようとする方々に大人気。特に、子供達の中には、一度買って食べてみて美味しかった、と言ってわざわざ戻って追加で購入してくれた子も。また、中には、障がい者施設で作ったパンという面にも着目して買っ



稲門祭ブースの前で

て下さった方もいました。平成卒のメンバーも販売を楽しみと同時に、周りの稲門会のブー

恒例のテニス大会を開催

藤稲テニス会

藤稲テニス会では、春合宿はコロナウイルスの影響で3年連続の開催不可となりましたが、昨年に引き続き今年も11月3日に恒例のテニス大会を実施することができました。

大会は、平成卒の50代から昭和30年卒の大先輩まで、総勢12名のダブルス戦を行いました。

長瀬会長による開会宣言、須田会計担当による大会説明、梶倉事務局長からの藤沢稲門会の活動報告を受け、浅野副会長の指導で準備体操を入念に行い、大会をスタ



12名が大集合!

ートしました。春合宿ができなかった鬱憤を晴らすようなスマッシュやボレーに、大きな歓声や拍手が鳴り響きました。

崎陽軒のテイクアウト弁当での歓談も楽しく、特にけが人も出ず、久しぶりのイベントを満喫いたしました。最後は、表彰式と浅野副会長の締めで打ち上げました。

藤稲テニス会では、毎月第2・第4土曜日に善行テニスコートにて例会を開催しています。また、5月には春合宿を予定しております。新たに同好の士の参加をお待ちしています。

キャプテン 遠藤洋介
(平成13理工)



熱心にボールを追ったプレーです。



スを覗いたり、2021年10月に開館した早稲田大学国際文学館(村上春樹ライブラリー)の見学をしたりと、多いに久しぶりのキャンパスを満喫しました。そして、そうこうしているうちに、パンが品薄に、最後は値引きセールを行うと、あつという間に完売となりました。

感染症の影響で、飛沫拡散防止のためのアクリル板を立てたり、こまめにブース内をアルコール消毒をしたりと制約のある中での開催でしたが、どんな状況にあっても「世界で輝くE.W.A.S.E.D.A」の一員であることを誇りに思う一日でした。

林 陽子(平11・文学)

